



絵馬に見る日本人の「とりなし」の心

牧師 立石尚志

私はNY周辺の日本語を使う方々にキリスト教を伝えるために日本から派遣されている宣教師ですので、4年に一回の帰国報告の義務があります。そのようなわけで今年も6月から半年間、関東地方の教会を中心に全国の教会を回って報告会を開き、過去4年間の感謝と新たな4年に向けての祈りの要請をして回っています。12月の初めに再び米国に戻る予定です。

さて、報告旅行の傍ら、私は学びの一環、また純粋な興味からあちこちの神社仏閣を訪問し、その歴史を知り、そこでの人々の様子を観察、考察することにしてはいるのですが、今日日深いのは、神社と寺とでは宗教が異なっているはずなのに「絵馬」が共通して使われていることです。祈りの課題や感謝を奉納する方法が寺と神社で同じなのはまさに日本人の神仏混淆の名残でしょう(教会では絵馬は使いませんが)。プライバシーの侵害を少々気にしつつも実際どんなリクエストが記してあるのか立ち止まって絵馬を読んでいくなかでふと「優しさに触れる」感動を覚えます。例えばこんなものがありました。

鹿島神宮(茨城)で見掛けた絵馬・・・

「お父さんの仕事がうまくいって、家族みんなが健康ながいできますように♡♡」!

金刀比羅神社(香川)で見掛けた絵馬・・・

「お父さんの病気が治って大好きな魚つりができますように☆! 素敵な出会いがありますように。」!

「直と仲良くいれますように♡! お母さんがケガしませんように♡! 豪ちゃんかまじめになりますように♡! 麗ちゃんが結婚できますように♡! 愛ちゃんが赤ちゃん生みますように♡! おじいちゃん・おばあちゃん長生き♡! お父さんのムグ違いが減りますように♡! 香川で就職できますように♡! みんな幸せで笑顔でいれますように♡」(固有名詞は変えてあります)

絵馬に記された祈りのリクエストの多くが「自分のため」であることが多い中で、今挙げたような家族や友人のための「とりなしの祈り」も少なからずあります。自己中心な時代にありながら、さわやかな風を感じる思いでした。日本人にはまだまだ希望がある、そんな風にも感じました。

絵馬に限らず私たち日本人は普段の生活の中でも随分他人のために「祈り」ます。11月も半ば過ぎれば、はやばや年賀状作成に取り掛かっている人もいらっしゃるでしょうが、新年にかけてどれほど多くの「あなたのために祈りしています」というメッセージが交わされることでしょうか。どの神か仏かは

別としても、人の幸せを願って「とりなしの祈りをする」ことは日本人が古来よりずっと続けてきていることであることが分かります。日本人は実際、信仰心があついのです。

ところで、二千年近く前、宣教師パウロも今回私がしているのと似た体験をしました。当時の学問の府であり、宗教の総合デパートであったギリシャのアテネの町を訪問した際、彼はアテネ人たちの行動を見てこんな言葉を残しています。

「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私はあなたがたを宗教心にあつう方々だと見ております。私が道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ているうちに、『知られない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう。この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主です・・・もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。」

ここにあるように、二千年前のアテネ人たちは宗教心にあつう人々であり、ギリシャの神々のみならず、「知られない神」にすら祭壇で祈りをささげていました。月星太陽の天体、山や川、大きな木や石があればありがたく拝む日本人も共通した性質を持っていると言えるでしょう。しかしながら、広く何に対しても信仰を表す代わりに、神社、仏閣にかかわらず、実際に祈りをささげている対象を本気に信じて答えを待ち望む、ということは少ないのではないのでしょうか。数打ちやどれか当たるに違いない、という感覚で寺にでも神社にでも出かけるのではないのでしょうか。その一方で「宗教はほどほどに」とも教えられているので深入りすることもしないのではないのでしょうか。

宣教師パウロが命を張ってまでアテネ人たちに伝えたかったこと、そしてクリスチャンたちが二千年間、一人一人証したかったことは何でしょうか。それは「本当に祈りに耳を傾ける方がいる、本当に祈ったことに答えてくださる神がいる、間違った願いには答えず、私たちの祈りや思いを遥かに超えて私たちに答えてくださる神がいる。困難や苦しみさえも私たちの益のために用いてくださる方がいる。そしてこの神に本当に出会うことができる。」ということだったのです。

絵馬に込められた祈りはこの上なく尊いものだと思います。それだけに、この祈りが本当の神に届けられるようになることを願わずにはいられません。本当の神はわずかなお賽銭で祈りに答えたり答えなかつたりする神ではなく、その代わりに、私たちが本気になってご自身を求めようになることを願っておられるのです。この神に一步近づいてみられませんか。■

「受洗の証し」M. H. 兄 受洗日 2011年8月14日

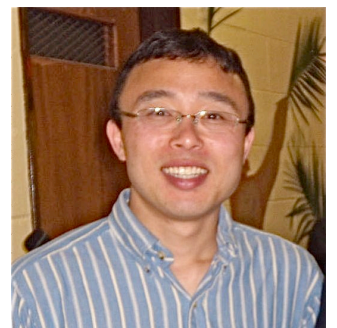
●私がキリスト教と初めて出会ったのは大学生のときでした。私の通った大学がキリスト教系の大学だったからで、そこで私はキリスト教概要を学び、時々行われる礼拝にも参加しました。新約聖書を少しは読み、イエスのなした数々の奇跡をすごいと思ひ、また、イエスはなかなかいいことを言うなと思ったりしました。しかし、イエスが私たちの罪のために十字架に掛けられた、という意味が理解できませんでした。大学でのキリスト教は、試験に受かりさえすれば良いわけで、その後は聖書を開くこともありませんでした。その頃の私は、自分には神様が必要だとは思っておらず、何

事も自分で努力すればそれに見合った結果が出るのが当たり前なのに、神様にすがるのは、努力なしに結果だけを求める不正な態度のように感じたものです。自分が罪深いと意識することなどほとんどなく、たまに意識することがあっても、他の大多数の人よりははまだ、と自分に都合の良い考えをしていました。

大学4年生のときに交換留学でノースカロライナの大学に一年間行きました。妻とはここで出会い、やがて結婚し、しばらく日本で暮らしたのち、ニューヨークにやってきました。こちらに来て初めて、私たち夫婦は教会に通うようになりました。実は、

私はアメリカに来るまで、妻がクリスチャンだと意識したことがありませんでした。

彼女が大学生の時代、神様から離れていたときに私と出会って結婚してしまったからだったのですが、そのことを彼女は後悔していたようです。私としては、キリスト教について学ぶこと自体に異論はなく、こうして教会通いが始まりました。



日本の大学で使った聖書は新約聖書のみでしたが、こちらで手にした聖書には旧約も付いており、このとき初めて旧約聖書を読みました。少し読んでみて持った感想は、旧約聖書の神様はアブラハムの民だけをえこひいきするずいぶん自分勝手な神様だ、というものでした。その頃、若い人たちの聖研グループにも少し参加しましたがそこでは、私が疑問に思うことを質問しても、残念ながら納得のいく答えを得ることはありませんでした。私の理解力が足りないことが大きかったこともあったと思いますが、私には、彼らの説明が、すでに信じている人にも通じる道理を説いているだけのように感じられたものでした。その後も妻に付き合っ、様々な教会に足を運びました。とは言え、教会に行っても私はもっぱら牧師の話聞くだけでした。牧師の話に共感し、いい話が聞けたなあ、と思うこともたまにはありましたが、大抵は納得できず、頭の中で反論したり、途中で眠ってしまったりしていました。このような状態が10年以上続きました。

●ところが一方で、私は、創造主としての神様、あるいは人知を越えたものとしての神様の存在を、いつの頃からか信じるようになっていました。そしてこの神様に守られ、祝福を受けていると感じ、そのことに感謝するようにもなっていたのです。いつからそのような神様の存在を信じるようになったのか、不思議ですが、それは様々な経験を通じて徐々に培われていったものだと思います。

ひとつには、三人の子どもの誕生に負うところが大きかったように思います。率直に言って、子どもの誕生は、人生の他のどんな経験とも大きく違う、まさに奇跡のようなものだと思いますが、この奇跡を目の当たりにして、私は神様の偉大さやその祝福を感謝することが自然にできるようになったように思います。またニューヨークでの友人の中には、問題家庭に育った人が少なからずいました。一方、私を育ててくれた親・家族は、それまでは平凡で当たり前なものと思っていましたが、たいへん恵まれたものであることに気付かされました。人間は生まれてくる環境を自分で選ぶことはできませんから、これも神様に感謝せずにはおれません。

アメリカに移住してきたときは、全く何の計画も立てず、成り行き任せでやってきた

のですが、すぐに仕事も見つかり、順調に生活を軌道に乗せることができました。あの頃はITバブル崩壊による不況が始まった頃で、後から考えると危ない橋を渡っていたように思いますが、私たち夫婦は大変恵まれていました。またリーマンショック後の不況から現在に至るまで、多くの友人が職を失っていく中、私たちは神様に守られてきました。

このように、スーパーパワーとしての神様の存在を信じ、感謝の念もあったのですが、様々な疑問が邪魔をして信仰には至りませんでした。まず、旧約聖書の神様がとても理不尽に思われたこと、また旧約と新約のつながりも分からず、イエスが私たちの罪のために死んだ、と言うのが分からないままでした。聖書をちゃんと読めば分かることだったので、聖書はとても長く、たまに軽く読むだけだった私は、いつも途中で分からなくなるのでした。そもそも、日本人とどう関係するのかも分かりませんでした。やがて子ども達が「お父さんは神様を信じていないの？」などと尋ねるようにもなりました。私は、信じたい気持ちは持っているものの、それでも、分からないものを無理やり信じることは出来ませんでした。

●そんなときに3・11の東日本大震災が起きました。あのすさまじい被害の映像を見て受けたショックは誰でも同じだったかもしれませんが、阪神大震災を経験している私は、いてもたってもおられない気持ちでした。ところがその頃通っていた教会での翌日の礼拝で、牧師は一言もこの災害に触れなかったのです。この教会のもう一人の牧師は、数日後、お祈りの課題メールでこの災害に触れましたが、「日本は裕福な国で、国が復興に必要な費用を出せるので、寄付は特に必要ありません」と付け加えたのです。あとから考えるとこれも神様の導きでした。この対応に失望した私は、教会を変えることを決め、やって来たのがこのグリニッチの教会だったわけです。

この教会が、これまで通った数々の教会と一番大きく違ったところ、それは、信仰について私が持つ、どんな疑問でも遠慮なく聞いてよい雰囲気があることでした。それまでは、こんなこと聞いてしまって良いものだろうか、怒らせてしまうのではないだろうか、と口に出さずにいた疑問も、心行くまで尋ねることができました。これ

はやはり日本語で学べるのが大きく影響していたと思います。また、やがて聖研に参加させていただくようになると、牧師先生自らが私の疑問にとことん答えてくれることも驚きでした。

さらにこの聖研での聖書の詳細な学び、特に「ローマ人への手紙」を学んだこと、また、グループ会で持った数々の話し合い、勧められて読んだ中川健一先生の「日本人に贈る聖書ものがたり」などを通し、やっとな私の目から鱗が落ちたのでした。こうして自分の罪深さを知り、福音を理解することができ、神様からの賜物は、ただ単に受け取れば良いということを知るにつけ、これはグッドディールだと思いました。こうして私は、キリスト・イエスが私の罪のために死んで復活したことを信じました。

聖研では、「何でも納得しようとするのも人間が自己中心的になっている罪だ」とも教わりました。それでも、私にとっては疑問を解き、納得することが、信じることにどうしても必要だったようです。仕組みが分かると、様々な経験が繋がっていることに納得がいくのです。時間はかかりましたが、こうなることは当然神様はご存知だったわけで、そもそも妻が学生時代に神様から離れていたことでさえ、神様のご計画の一部だったのです。こうして私は救われたのでした。

受洗の決断にはもう少し時間が掛かりました。福音は理解できても、聖書に関する新しい疑問が次々と湧いてきて、まだこんなに分からないことがあるのに、信仰告白してしまっているものなのか、と悩んでいたのです。しかしそれも、黒田先生の奥さまの康子さんに言われた「ええねん、ええねん、かまへんねん、そないこと」という言葉でやっとな踏み切りがついたのでした。

まず妻に受洗の決意を伝えました。彼女は本当に喜んでくれ、それだけで決意してよかったと思いました。私の長男・蓮太郎が、私がイエス様を信じることができるようずっと祈ってくれていたことも教えられました。もちろん妻は長年私のために祈り続けてくれており、彼女には感謝の言葉ありません。また、これまでにいろいろな形で私に働きかけてくれた沢山のクリスチャンの方々、グリニッチの皆様、そして立石先生と黒田先生に感謝します。すべてを導いてくださった主に感謝します。■

■12月～2012年新年の集会・行事予定■

※ 下記以外にも週の間、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝／10:00～11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。
- 礼拝後 グループ会／12:15まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます
- ★ 祈禱会／水曜日 10:00～12:00

【各種集会】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会
隔週水曜 1:15pm 場所:井上宅、ソファ宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜 マルコの学び
毎週木曜 10:30am 場所はお問合せください
月三木曜 7:00pm チョイ宅／男性聖研

★ ハリソン 聖書を読む会

- 隔週火曜 10:00am 場所:ハリソン長老教会
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ
第1, 2, 4 木曜日 8:30pm 場所:荒木宅

● 12/10(土)午後2時 子供クリスマス会

● 12/13(火)午前10時 クリスマス家庭集会 (山下宅)

● 12/18(日)午後5時 クリスマスキャンドル礼拝

● 12/25(日)礼拝後 クリスマス愛餐会

● 1/1(日) 元旦礼拝

● 1/8(日) 礼拝後 お餅を食べる会

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203)531-1609、 e-mail: jgclmi@verizon.net